

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	令和元年11月20日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	14	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	3		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870201294
事業所名	都市型グループホーム ゆう
(ユニット名)	2階
記入者(管理者)	
氏名	秦 珠美
自己評価作成日	令和元年10月31日

<p>【事業所理念】※事業所記入 話しやすく和やかな雰囲気づくり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 排泄時は利用者様の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや行動をとり、トイレの戸は使用している人が外から直接見えないよう、戸を閉めて介助している。言葉かけについては、大声にならないよう紙に書いて説明したり、ジェスチャー、丁寧な言葉かけなどで配慮している。職員の異動や退職についてはご家族訪問時に紹介させて頂いたり、ゆうだよりに掲載して報告している。施設以外の相談支援については、支援課や高齢介護課に問い合わせし、知りたい情報を聞きだしてご家族に伝える事ができている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 毎朝、職員と一緒に廊下などのモップかけや手すりを拭くなどの掃除をしている利用者がある。 近くの高等学校との交流がある。利用者が運動会の応援に行けるように支援している。また、家庭クラブの生徒の訪問がある。地域の文化祭では、利用者の作品を出品し、当日は作品を見に出かけた。 午前中の活動について、パズル、塗り絵、折り紙、歌を歌うなど、数種類から選ぶ場面をつくっている。調査訪問時は、童謡を歌ったり、折り紙を折ったりして過ごしていた。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日常生活の中で意向の把握に努めている	◎		△	利用者の言葉などを日々の介護記録に記録して把握に取り組んでいる。支援してほしいことをセンター方式の様式に記入しているケースがある。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	意思の疎通が困難な場合は表情や動作で検討している				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族の方が来られた時、様子などを伝えている				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	その日の言動など気が付いたことは記録に残し伝えあっている				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員側の思いや決めつけで係わってしまいがちになっているが、本人の思いも聞くように対応している				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	ご家族に聞き情報量を得るようにしている			△	入居時、家族には、センター方式の基本情報シートを用いて利用者の情報を記入してもらっているが、情報量に差がある。その後、職員は、利用者との会話などから情報を得ているが、まとめるような取り組みは行っていない。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の介護記録、ミーティングで話し合い現状の把握に努めている				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	その時々状態を対応のスタッフが記録し、今日はどのような対応をしたなど、申し送りしている				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	申し送り時や全体のミーティングで話し合い、把握に努めている				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日々の記録で暮らしの様子を記録している				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	申し送り時やカンファレンス等で全員で意見交換をしている			○	サービス担当者会議には、本人と家族が参加している。家族が参加できない場合は、事前に電話で意見や希望を聞いている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日々の心身状態により、今日はどのような対応をすればいいかを話し合っている				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	スタッフ全員で話し合っ課題をクリアしている				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご本人の思いや意向を聞き、どのように暮らしていきたいかなど反映できるよう心がけている				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	双方の要望や思いを聞き取り、作成しているよう努力している	○		○	食事が低下した利用者についての医師のアドバイスを介護計画に反映したケースがある。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	日中はリビングに来ていただき、無理のないよう声をかけながら、みんなと一緒に過ごしていただいている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	ボランティアの人や音楽療法、運動会など行事には出席されている				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	担当者にも聞き取りし、何ができるようになったか、何が不足しているかなど本人を交えて話ししている			○	介護計画を個別ファイルに綴じて共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	日々の結果をチェックし、今後の課題など話し合いの場をもっている			○	毎日、ケアチェック表に支援した内容の番号を記入している。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	日々の介護記録に個別に記入している			△	介護記録に、利用者の言葉や行動を記入しているが、記入量は少ない。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	個別記録や申し送りノートなどに記録し、申し送っている			△	口頭で話し合うことが多く、その内容は申し送りノートに記入している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じた見直しを行っている。	◎	半年ごとに見直し、アセスメントし、ニーズの変更など話し合っている			◎	ケアマネジャーが一覧表を作成して期間を管理し、半年毎に見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	現状の把握、担当やスタッフに状況確認をしている			○	毎月のカンファレンス時に利用者一人ひとりについて現状確認を行っている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	モニタリングし、心身の状態が変化した場合、各関係者と話し合い、現状に応じたプランを作成している			○	状態変化があれば見直しを行うことになっているが、この一年では事例がなかった。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月1回全体でカンファレンスを行う、緊急時には申し送りで話し合っている			○	毎月、カンファレンスを行い、カンファレンスノートに記録している。緊急案件がある場合は、その場で話し合い、決まったことを職員用申し送りノートに記入している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	意見交換が出来るよう一人一人気付きや困っていることなどみんなと一緒に話し合っている				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	夜勤者以外、可能な限り多くの職員が参加できるようにしている				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議記録を確認できるよう記録し、目をとおすようにしている			△	欠席した職員は、カンファレンスノートを自主的に確認している。内容によっては、管理者が口頭で伝えることもある。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	朝夕、申し送りをし、重要な情報はすべて職員に伝わるようにしている 意見があれば聞いている			○	家族からの伝言があれば、職員用申し送りノートに記入している。ユニックによって、確認した職員はサインするしくみをつくっている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	朝夕、申し送りをし、重要な情報はすべて職員に伝わるようにしている		○		
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	出来るだけ叶えるように努めている				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	必要な場合は傾聴し、努めている			○	午前中の活動について、パズル、塗り絵、折り紙、歌を歌うなど、数種類から選ぶ場面をつくっている。調査訪問時は、童謡を歌ったり、折り紙を折ったりして過ごしていた。
		c	利用者が思いや希望を表現できるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	そばで見守ったり手助けをしている。見たいものや聴きたいものを聞き楽しんでもらっている				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりのペースや習慣に合わせていけるよう努めているが、入浴時間帯によってはスタッフのペースで進めることもある				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	個人個人において、喜ぶ言葉かけや感謝、ねぎらいの言葉を伝えている			○	利用者に「ありがとうございます」「頑張りましたね」など言葉をかけていた。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	表情や全身での反応を注意深くみながら本人の意向に沿った暮らしができるよう努めている				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	気をつけて行動している	◎	○	○	10月には、外部研修時に人権についての勉強をしている。調査訪問時は、丁寧な言葉遣いで一つひとつの動作に声かけをしていた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	つついっ大声になってしまいがちだが、目立たず、さりげない言葉かけに注意していきたい			○	職員は耳元で、「トイレに行きますか」と声かけをしていた。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	プライバシーに配慮しながら介助を行っている				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入る際はノックや了解、同行して入るようにしている			○	ノックをして、許可を取ってから入室していた。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	プライベートの保護、個人情報漏えいには気をつけている				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えをもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	昔のしきたりや洗濯物をたたんでいたり、参加する機会をつくっている				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	必要時には利用者には伝え、理解していただいている				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする。孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	トラブルのあった時、口げんかの時などは、さりげなく間に入り、声かけや場所を変えたりしている			○	仲の良い利用者同士と一緒に過ごせるよう席順に配慮している。調査訪問時、大きな声を出す利用者のことが気になる利用者があり、職員がその間に座って対応していた。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	どちらが悪いとは言わず、さりげなく間に入って解消に努めている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	訪問時の様子を観察したり、聞き取りをし把握できるよう努力している				/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご家族や本人に聞き取り、把握する努力をしている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	家族と外出したり、本人に聞き取り、はがきや手紙をだして支援している				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	自室やリビングなどお話ししやすいよう場を聞き、対応している				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	天気のいい日には、外回りを散歩したり、ドライブして気分転換を図っている	○	○	△	外出計画を立て、毎年11月には行事として、多々羅しまなみ公園に出かけている。日常的には、散歩などする事もあるが、その日の希望に沿った外出という点からは機会が少ない。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	運動会や文化祭など、参加できる時には支援している				体調をみながら、外出行事に参加することもあるが、戸外で過ごす機会は少ない。
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	天気や心身状態をみながら取り組みしている			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	年に2回はお花見や遠出など行っている。ご家族の協力もある				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修に参加したり、カンファレンスで話し合い、何が必要かを話し合っている				
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日々観察し、できることや、出来かねていることを記録したり伝達している				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	できることは見守ったり、一緒に行うようにしている	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	役割や得意分野などできることへの参加はさせていただいている				ジグソーパズルに取り組むことが好きな利用者には、欲しいパズルをカタログを見ながら自分で選べるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	役割や得意分野などできることへの参加(一緒に手伝ってする)はさせていただいている	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	文化祭や高校の運動会を見学したり、会議への参加を一緒にしている				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	ご本人の好みを把握し、支援している				昼食時、「口元を拭いときますか」と利用者にティッシュを手渡す様子がみられた。床の食べこぼしは、利用者が席を離れてから掃除を行っていた。 利用者は、それぞれが似合う服を着て過ごしていた。昼食後、暑くなり薄手のカーディガンに着替えた利用者に、職員が「緑色がよく合っていますね」と声をかけていた。入浴後は、肌着を着ずに、直接パジャマを着るなど、本人の習慣に合わせて支援しているケースがある。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	ご家族にお願いしたり、買って来て欲しいと頼まれた時はどんな物が良いのか確認して少しでも叶うようにしている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	着替えや必要なものを一緒に選んだり、聞いたり支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	ミニ旅行や花見で外出する時はその人らしい服を一緒に選んでいる				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	言葉の表現に気をつけながらさりげなくカバーできるようにしている	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ご家族にも聞き、ホームに来て下さる理容師さんにして頂いている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	見た目には留意し、その場にあった服装や髪形に気をつけている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	栄養状態、必要性など理解している				献立は、法人内の栄養士が立てており、食材は、業者からの配達を利用している。 調査訪問時、下膳をする利用者がいたが、利用者が食事一連に関わるような機会は少ない。 旬の野菜や魚などを採り入れている。 利用者が苦手な食材は、調理方法を変えたり、見た目や切り方を工夫している。 茶碗や箸、湯飲みなどは、事業所で用意したものを使用しているが、自宅で使用していたものを持ち込んでいる人もある。 職員は、利用者と同じものを一緒に食べながら食事介助をしていた。 昼食をつくる音や匂いがしていた。 食事前には、職員が準備をしながら「もうすぐご飯ですよ」と利用者伝えていた。 法人の栄養士が献立を立てている。定期的に話し合ったり、栄養士に相談する機会は持っていない。 調理方法や形態については、食事時の様子など見て、その都度話し合っている。内容によってはカンファレンスで話し合うことがあるようだ。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	何が食べたいか、何が好きかを聞き買い物する			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	手伝ってもらった時には感謝の気持ちを伝えている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	飲み物の形態、苦手な食べ物など把握している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	別のメニューに対応したり、季節の旬を取り入れている				
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	嚥下状態や健康状態に合わせて調理方法、盛り付けの工夫は行っている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	食器は陶器を使用している 握力のない人には軽い食器を使用している			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	介助の必要のある方は声かけしながら落ち着いて食べられるように配慮している			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	献立の内容を伝え介助している		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食べる量や水分量はその人に合った量を提供している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事以外に水分補給として、お茶やジュースなどご本人の希望にそい、工夫している 記録している				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	栄養士の作ったメニューをもとに作っている			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	まな板やふきん、タオルなどは毎日ハイター消毒し乾燥している				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの必要性は研修などにも参加し、毎食後口腔ケアを行い、理解している				
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎日の観察はしている			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	異常があれば歯医者に行っていたく うがい がきちんとできるよう声掛けしている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	自分で管理できない方は職員がしている 義歯は洗い、ポリドントにつけている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	出来る部分は本人がしているが、ほとんど介助で観察し声掛けしている			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	必要があれば、家族の方に連絡し歯科受診してもらっている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能が高まることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	<input type="radio"/>	理解を深めるよう取り組み、昼夜のおムツの種類を使い分けている				排泄表や職員の気づきをもとに、その都度検討したり、カンファレンスで話し合ったりして支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	<input type="radio"/>	嚥下状態や体質など理解し、便秘の方にはヨーグルト、牛乳などを飲んでもらっている				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	<input type="radio"/>	記録し、個別に把握している。尿意が分からない人は声をかけ誘導する				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	<input type="radio"/>	一人ひとりその時の状態に合った支援を行っている	◎		<input type="radio"/>	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	<input type="radio"/>	なるべく食べ物で排便を促せるよう取り組んでいる				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	<input type="radio"/>	声かけ誘導をしている。嫌がった時は少し時間をおいて再度誘導している				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	<input type="radio"/>	夜間等、排泄の失敗が多くなると家族に相談している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	夜間と日中で使い分けている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	<input type="radio"/>	薬に頼らず、自然排便を促す取り組みを行っている				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	<input type="radio"/>	入る順番などは工夫しているが時間帯は決まっていない 温度はご本人に聞く	◎		<input type="radio"/>	湯温や長さなどの好みに合わせて、2日に1回入浴できるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	一人ずつ入ってもらっている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来るところは自分でして頂き、手の届きにくい部分など介助している				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	<input type="radio"/>	無理強いせず、言葉かけや介助の仕方などを工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前のバイタル、状態の確認を行ない、入浴後も観察している				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	<input type="radio"/>	睡眠のパターンは把握している				現在、睡眠導入剤や安定剤を使用している利用者については、医師に利用者の様子を報告したり相談したりしながら支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	眠れない方は話し相手になり心が落ち着くようにしている 日中はなるべく離床時間を多くとる				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	<input type="radio"/>	夜眠れるように散歩に行ったり、日光浴、運動をしている			<input type="radio"/>	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人の希望や状態によって取り入れるようにしている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	<input type="radio"/>	希望があれば電話をかけたたり、手紙やはがきをだす支援をしている				/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	<input type="radio"/>	必要時には声をかけ手助けしている				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	<input type="radio"/>	本人より訴えがあった時は代わりに電話をかけ本人と代わったりしている				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	<input type="radio"/>	手紙が届いたら代わりに内容を代読している				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	<input type="radio"/>	遠方の方からは定期的手紙や連絡がくる。聞き取りにくいので、電話は少ない。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	必要時には使えるよう伝達しており、安心されている				/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	ご必要時、要望があれば、家族やスタッフが同行する				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	行きつけの眼鏡や時計店など、スタッフが同行する				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	要望があればご家族に伝える お金の値打ちが分からない方もおり、個別に対応している				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	月いくらぐらい必要かを話し合い、使ったお金はきちんと記録し、確認している				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	家族の了解を得て預かり、おむつ代や日用品を必要に応じて購入する 出納帳の確認もしてもらっている				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	希望の受診、他の病院への送迎、提出書類など、本人やご家族に聞き取り対応している	◎		○	入居に際して、市役所での手続きに職員が付き添ったケースがある。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	門は常時全開しており、出入り口など清潔に掃除している	◎	○	○	玄関周りは、観葉植物などを配置し、掃除が行き届いていた。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	生活感のある雰囲気(カレンダー・写真など)作りに留意している	◎	○	○	中庭を中心に回廊の造りになっている。窓側にソファを設置している。昼食後、ソファに座って利用者同士でおしゃべりしていた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日、掃除機やモップをかけ、汚れたら都度掃除している			○	窓からの採光があり明るい。掃除が行き届き、不快な臭いは感じなかった。床暖房を設置している。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	近くの田んぼや畑まで散歩に行ったり、料理の音やにおいなど感じて頂くよう配慮している			△	居間の棚にパズルを置いており、利用者が自由に出し入れしている。居間は、台所と一体になっており、食事作りの様子がよく見え、音やにおいがしていた。季節感については、手作りの壁面飾りを飾っているが、少ないように感じる。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	気の合う方同士お話できたり、一人でいたいときには自由に部屋に帰られている				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	ドアを開め、直接見えないように工夫している				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	ご本人やご家族が持ってこられたものを家具や物を置いている	◎		○	居室に水筒を用意して、自由に水やお茶が飲めるようにしているところがある。棚の上に、外出予定などを書き込んだカレンダーを置いていた。居室から出られるベランダに、布団を干していた。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	安全に移動が出来るよう必要部分には手すりをつけ自走車椅子で移動されている			○	「トイレ」の案内表示は、どの方向からでも見えるように、複数表示している。廊下の手すりを伝いながら車いすを自走して、居室に戻る利用者がいた。居室入口に自分の写真を貼っているところが数か所あった。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	トイレや洗面所などは目線の高さに表示物を付けた。扉に名前を書いたり、写真を貼っている				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞やほうきは自由にとれる 他のはスタッフが通し必要時手渡ししている				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感、あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	施設が交通量の多い道路沿いにある為、オートロックになっている。家族の方には了解を得ている	○	○	△	日中、玄関は施錠している。入居説明時に、本人・家族に説明している。10月に、身体拘束についての研修を行っているが、鍵をかけることの弊害などについて学ぶ機会は持っていない。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	ご家族には聞き取りしている 施錠を望まれている				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	天気の良い日は施錠をはずし、開放している				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個人の基本情報にて把握している				/
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日々のバイタルチェック、その日の身体状態、異常をよく観察し、変化があれば報告している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	毎日、ドクター報告している 何かあれば病院に相談する				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本体が医療機関である 希望する医療機関に受診できるよう支援している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	ご本人、ご家族の希望があれば紹介状を書いてもらい、適切な処置ができるよう支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	緊急時や同行できないご家族の場合、合意を得られるよう話し合いを行っている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時には看護師がサマリーを提供するようになっている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	ご本人やご家族にわかるよう説明し、今後の処置については説明をいただいている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	同法人内の病院とは日頃から関係づくりを行っている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	職場内の看護職に伝え相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	同法人内の病院と24時間いつでも相談できる体制になっている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	月に2回のDr往診と毎日夜10時のDr報告により日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が可能で早期発見・治療につなげている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方通り服用し、理解に努めている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	指示どおりに服薬し、飲み忘れや残薬を防ぐよう取り組みを行っている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日常的に状況を記入し、確認を行なっている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	バイタル、日々の状況を記入し、変化があれば速やかに家族や医師に報告している				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	ご家族と話し合いを行い、意向を確認しながら方針を共有している				入居時、「看取り介護についての同意書」に沿って説明している。 状態変化時には、医師・家族・職員で話し合いを行い、方針を共有している。 さらに、家族アンケートの結果に基づいた取り組みに工夫してほしい。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	家族、医療機関、関係者で話し合い方針を共有している	△			
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	主治医やスタッフと話し合いのもと支援を行っている				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	ご家族に説明し、理解を得ている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	ご家族、医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	ご家族の話や要望をじっくり聴くようにしている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修に参加したり、カンファレンス時に学んでいる				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	医師や看護師の意見を率直に行う体制はとっている				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	医療機関、保健所などで情報を取り入れている				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	愛媛県感染症情報にて随時対応している				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	来訪者は玄関に消毒液設置、利用者に対してはこまめな手洗いの支援を行っている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	ご家族の訪問時の様子(体調)も観察している日々のできている様子をお話している				
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ゆっくり居室やリビングで過ごして頂いている				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	忘年会や家族会の機会は作っているが、一緒に参加される人は少ない	○		○	花見や忘年会時に案内している。
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。('たより'の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	便りの発行、誕生日の写真など定期的に報告、郵送で伝えている	○		○	年2回、「ゆう」だよりを発行して、行事時の様子などを報告している。遠方の家族には、毎月、書類を送付する際に、手紙と写真を同封している。
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	来訪や電話連絡の際、不安事などないか聞き、日々の過ごし方など報告している				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	対応の仕方、同じ対応でも人それぞれ違い、日々の状態によりいい時と悪い時があることを説明している				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	必要時には料金改正、行事など書面で説明させていただき了解していただいている	△		△	行事については、年2回発行している「ゆう」だよりに掲載して報告している。職員の入職、異動などについては、運営推進会議時に報告している。運営推進会議の議事録は、家族に送付していない。設備改修や機器の導入については、報告していない。
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会と忘年会の出席等は事前に連絡している				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	おおげさにならないよう、配慮し状態報告している				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	来訪時や電話連絡があった際、今の過ごし方、状況や日中本人が行なっていることを説明し、気がかりなことがあれば傾聴するよう努力している			○	家族来訪時には、職員から話しかけ、写真を見せながら日頃の様子を伝え伝えている。
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	具体的な説明を行い、納得を得ている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	契約書に記載している				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し了承を得ている				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	一定の人のみ理解を図っている		◎		
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日常的な挨拶、運動会、文化祭、地域の活動があれば参加し、自治会の人たちに参加をして頂いている。		○	◎	近くの高等学校との交流がある。利用者が運動会の応援に行けるように支援している。また、家庭クラブの生徒の訪問がある。地域の文化祭では、利用者の作品を出品し、当日は作品を見に出かけた。調査訪問時、近所の理容店の店主が差し入れにみかんを持ってきてくれた。
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	挨拶して頂いている				
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	近所の方が、ときどき野菜や花を届けに来て下さっている				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	あいさつや声かけはできているが気軽に立ち寄って頂く事はできていない				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	高校生の訪問、散髪、フラダンス、大正琴など定期的な来訪で支援して下さる				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	図書館で紙芝居や本を定期的に借り、レク活動に活用している				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	公民館、商店、理容店、学校への働きかけはできている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者や家族、地域の人々の参加はあり記録にも残している	△		○	毎回、利用者、家族、民生委員などが参加している。利用者は順番に1名が参加し、家族は決まったひとりが参加している。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	毎回、報告し話し合っている			○	利用者・活動の状況は、写真を見せながら報告している。外部評価結果と目標達成計画を口頭で報告している。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見や提案により、サービス向上に活かしている。行事後には写真など見ていただき報告している			◎	○	会議で取り上げる内容について相談したところ、「ヒヤリハット事例を報告している事業所もある」ことを知り、今後、採り入れる予定がある。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	配慮、工夫し参加していただいている			◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	玄関に貼り、ご家族や訪問者にいつでも見れるようにしている					
IV.より良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	日常的に取り組めるよう雰囲気づくりに心がけている					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	玄関やホーム内にみんながよく見えるように貼っている	○	△			
42	職員を育てる取組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員個々の状態を把握し、勤務シフトや業務内容に負担がないように職場環境、条件の整備に努めている					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	日本認知症グループホーム協会や県地域密着型サービス協会、今治市グループホーム交流会などに加入し職員の意識を向上させるよう取り組みをしている					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	法人内のカンファレンスに参加して意見交換したり、年2回の親睦会で全職員が交流を図れるようにしている	◎	○	○		法人全体で年2回親睦会がある。休憩を交替で取っている。職員から意見があれば、内容によっては管理者が法人のカンファレンス時に伝えている。
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	理解している					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	カンファレンスや日々の申し送りの中で、気づきを話し合うなど機会や場はつくっている					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	研修に積極的に参加したり、日頃の関わりが適切に行われているか常に意識するようになっている。これらの行為を発見した場合は注意喚起や再発防止策を話し合っている				○	10月の事業所内研修時に勉強している。不適切なケアを発見した場合、職員は、管理者に報告することと認識している。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日常的に注意し関り方をみている					
44	身体拘束をしないケアの取組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	理解はしている					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	スタッフ側の都合で利用者の行動を制限することがないように注意している					
		c	家族等から拘束や錠錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	玄関の錠錠については家族にアンケートを取り、理解してもらっている					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	研修に参加し、理解するようになっているが全職員がその内容を理解は出来ない					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	対応が必要と思われる方には情報提供したり相談にのっている					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	対応が必要な方に来て頂き、説明をお願いするなど連携体制は築けている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成し、職員も周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修に参加したり、消防署の救急救命講習を全職員が順番に受けるようにしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットに記録し再発防止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	申し送りや、カンファレンスなどで検討し、事故防止に取り組んでいる				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情ができれば対応する				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情に対しては対応する				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情の当事者に対しては、迅速に具体的な対応について報告し、取り組みの経過や結果について説明し納得を得るようにしている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日々の生活の中で意見や要望を聞いている、運営推進会議等でも要望があれば聞いている			△	運営推進会議時に参加する利用者は機会があるが、その他の利用者については、聞く機会は持っていない。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	来訪時や運営推進会、家族会のときに聞く機会をつくっている 玄関にも匿名で書き込めるよう設置している	◎		△	運営推進会議に参加する家族は、機会があるが、その他の家族については、聞く機会は少ない。家族から個別に、利用料金についての意見があったようだ。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	入居契約時の時に説明し承らだしている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	Dr往診時や毎日のDr報告、ミーティング時に直接聞く機会をつくっている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員一人ひとりの意見や提案などを聴く機会を持っている				○
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1回、自己評価に取り組んでいる				
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員の意識や実践レベルが確認できて今後の学習の機会として活かしている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成に向けて事業所全体で取り組んでいる				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果はコピーして渡し、報告している	△	○	△	運営推進会議時に、口頭で外部評価結果と目標達成計画を報告している。家族には外部評価結果を郵送している。モニターをもらう取り組みは行っていない。
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	計画にあげた内容の取り組みについてミーティングの時に話し合っている				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	具体的な対応マニュアルは作成している				
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	利用者が安全に避難できるよう訓練を行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に行ない、点検している				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	地域の合同訓練には毎年参加している。	△	○	○	地域合同の防災訓練に職員2名が参加している。運営推進会議時には、防災について議題に挙げて話し合いを行っている。さらに、事業所で行う避難訓練に地域の人の参加を呼び掛けて、地域との協力支援体制作りにつなげてはどうか。
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の合同訓練には毎年参加している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自 己 評 価	判 断 した 理 由 ・ 根 拠	家 族 評 価	地 域 評 価	外 部 評 価	実 施 状 況 の 確 認 及 び 次 の ス テ ッ プ に 向 け て 期 待 し た い こ と
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	同法人内や地域の認知症サポーター養成講座に講師をしたり実践報告をキャラバンメイト研修で報告を行っている				実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと 入居に関する相談はあるが、相談支援の取り組みは、行っていない。 地域のケア拠点として、取り組みに工夫してほしい。 法人病院主催の地域住民向けの介護予防事業(リハビリ、体操など)開催時には、職員が手伝っている。 認知症介護実践者研修の実習や、高校生の体験学習の場として協力している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	施設の情報や相談等、聞かれたり話される人がいる		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	特に実施していない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	学生のボランティアや職場体験の受け入れ、日吉協会の研修、実習、介護支援ボランティアの受け入れもしている				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域のイベントや高校の体育祭、他の事業所の取り組みなど参考に聞いている			○	